

令和5年度学校マネジメントシート

(三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園 (本校))

1. 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出し 元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。 ※元気とは、健康や体力を、笑顔は感性や情操を、光は個性や特性を意味する。</p>
(2)	育みたい 児童生徒 像	<ul style="list-style-type: none"> ・紀南地域の関係機関・団体と協働し学習をすすめている。 ・紀南地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。 ・自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ・学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ・紀南地域等の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ・紀南地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。 ・特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校等へ専門的なアドバイスを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ・教育環境をソフト、ハード面で整備し、児童・生徒が安全・安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。 ・ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。

2. 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童・生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康で笑顔で、安心して学べること ・可能性を伸ばし、社会的に自立すること <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が、健康で笑顔で、安全に学べること ・児童・生徒の進路が保障されること <p><紀南地域の障がい児を持つ保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学等の情報提供の機会があること ・教育相談の機会があること <p><紀南地域の教職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の研修が実施され、専門的知識が提供されること ・特別支援教育に関する相談の機関であること 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・有意義な学校生活と進路保障 <p><福祉・医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携強化と情報共有 <p><地域の公立学校等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修と専門的知識の提供、教育相談 	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動への理解、支援と参画 <p><福祉・医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会参加、自立に向けた相談の充実 <p><地域の公立学校等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事交流と本校への理解、協力

	<p><紀南地区の企業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労に向けた連携 <p><金山地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸行事等へ参加し、認知度を高める 	<p><紀南地区の企業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校への理解、協力 <p><金山地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校への更なる理解、交流
(3)前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器について、全体でみると約 51%だが、使う先生と使わない先生がいるのではないかと。どのようにして活用していくのか課題である。 ・「働くこと」と合わせて、「余暇の過ごし方」についても教えてほしい。同じ趣味をもつ友達もできるのではないかと。 ・昔からの行事について、由来なども教えてほしい。「お盆」はただの休みではなく、どういう意味があるのかを知ることが大切である。 ・土をさわる活動を行ってほしい。土をさわる活動には生きていくうえで大切なヒントがある。昔のように、田んぼなどでのびのび遊んでほしい。 	
(4)現状と課題	教育活動	<p><交流学习の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校がある金山地区との交流を進めていく必要がある。学校関係者評価委員会には金山区長も参加しているので、地域の活動状況を把握し、どのような形で参加していくのかを検討する。 ・同じ地域で暮らす仲間として近隣の学校とは積極的に交流活動を続けていく必要がある。コロナ禍の状況でも継続していけるような取り組みを進める。 <p><ICT 教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校となっても、オンラインで平常時と変わらない教育活動を続けることができるように準備する。 ・高等部では一人一台端末 (iPad) を整備しており、日常的に ICT を利用して授業が行えるようにする。教育効果を高めるためには、どのような形で使えばよいのかを検討し、校内で情報を共有する。
	学校運営等	<p><研修機会の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童生徒に対応するために、常に新しい知識を身につける必要がある。外部講師などを活用して、研修を進める必要がある。 ・新規採用教諭や臨時的任用講師が多いので、特別支援教育に関する基本的な知識を身につける研修に取り組む。 <p><職場環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間は減少傾向にあるが、さらなる取り組みが必要である。効率的な業務の進め方などの情報を共有したり、職員アンケートの結果などを元にして、職場環境の見直しを進める。

3. 中長期的な重点目標

教育活動	<p><学習指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、「個別的教育支援計画」等を策定する。 ・児童生徒の自主的な活動を促進することにより、日々の生活を豊かに生きる力を育てる。 <p><キャリア教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する。 ・小学部、中学部及び高等部の特性を生かし、学部間の連携を深め、一貫性のある教育を進める。 <p><安全で安心な学び場づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや暴力のない学校づくりに取り組む。 ・防災教育、防災対策の推進に努める。
------	--

- <保護者・地域住民等との連携>
 - ・地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校や福祉関係施設、行政機関等との連携を強める。
 - ・地域における特別支援教育を推進するために、特別支援学校のセンター的機能による支援の充実に取り組む。
- <資質向上の取組>
 - ・教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識の習得に努める。
 - ・新しい時代の教育に対応できるよう研鑽と修養に積極的に取り組む。
- <働きやすい職場環境づくり>
 - ・業務分担等の見直しを図り、総勤務時間の縮減に取り組む。

4. 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容	結果
学習指導 の充実	<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりの成長に合わせた、きめ細やかな授業を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画（日常生活の指導）の目標達成率を80%以上とし、一人ひとりのニーズに合った授業となっているかを振り返る。 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を図り、生徒の学びを深めるとともに、生徒のキャリアの形成を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部内で授業研究を実施し、1人1回提案授業を行う。 ・提案授業者は、一定期間内に他学部の授業見学もしくは他学部の授業の動画を撮影して視聴し、自身の研鑽の機会とする。 ・提案授業後に事後検討会の場を設け、目標や課題設定、生徒への支援等が生徒の学びにつながっているか、キャリア発達を育む取り組みとなっているかを振り返る。また、事後検討会で話し合った内容を、毎回全学部周知する。 ・授業研究について、毎回全学部告知して参観を募り、授業に対して多角的な意見を出してもらう機会を設ける。 <p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPad やパソコンの操作方法を身に付け、各自が操作できるよう支援する。 ・ICT 機器を用いた視覚支援を取り入れる。 <p>【活動指標】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前期達成率は72%であった。 ・後期達成率は76%であった。 <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回の提案授業を行った。 <p>授業者は提案授業の前後の期間に、他学部への見学・授業動画の撮影を行って、自身の研鑽の機会を設けることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業メモの中にキャリア発達の目標について盛り込むことで、キャリア形成について・支援の在り方についても事後研で言及することができた。 ・中学部研修発表の場で、全学部に提案授業動画を提示して事後研の形式を設けることで、様々な意見をいただくとともに中学部の取り組みをより具体的に提示することができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・iPad については、特別活動、生活単元学習、総合的な学習の時間、音楽、自立活動、社会、理科、日常生活の指導等の授業で活用

	<ul style="list-style-type: none"> ・週 2 回以上、授業で活用する。 ・文化祭で制作動画の発表を行う。 ・授業の見通しを持ち、一人で活動をすすめることができる (2 教科以上) <p><教務・情報部 (教務) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の目標と評価が児童生徒にとって、具体的に実態に応じたものになっているかを確認しながら、PDCA サイクルを促し、一人ひとりの可能性を引き出す。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の目標設定と実践、評価についての研修を年 1 回以上実施する。PDCA サイクルが効果的に機能しているかの検討会を年 4 回実施する。 <p><教務・情報部 (情報) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に ICT 機器を活用した授業を実施し、新しい学びの創造や実践に取り組む。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用した授業を、全体の 50%以上とする。 ・年度末に授業担当より聞き取りを行い、ICT 活用率を算出して、校内で共有する。 <p><研修・人権教育部 (人権) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小、中学部の居住地校交流、各学部の学校間交流を推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部、年 1 回以上の学校間交流を行う。 <p><保健部 (保健指導) ></p> <p>(1) 歯科指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒の障がいの状態や発達の段階的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にする。 	<p>している。調べ学習や文化祭学部発表の動画制作等に活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援については、道徳、美術、音楽、生活単元学習、体育、自立活動総合的な学習の時間、社会、理科等の授業を中心に取り入れた。学習に見通しを持つことができ、理解を深める一助となっている。 ・年度初めに研修部と連携して個別の目標設定についての研修を行った。目標・成績の検討会を年 4 回行った。 ・高等部 1 年生の生徒が一人一台のタブレット端末を使用できる環境は 9 月に整った。 ・授業での ICT 機器活用率は、全体で 60%であった。(小 76% 中 45% 高 61%) ・居住地校交流は、小学部 6 名の児童が実施予定である。 ・小学部は有馬小学校、金山小学校 2 年生、中学部は有馬中学校、高等部は紀南高校 JRC 部と実施した。紀南子どもフェスティバルに参加した。 ・6 月に小学部の特別活動で、「歯みがき上手になろう」を主題として保健指導を実施した。上手な歯みがきのポイントとして、「えんぴつもち」「やさしい力でみがく」「歯ブラシを小さく動かす」を意
--	--	--

	<p>・歯・口の健康づくりの実践を、生活の自立や社会生活への参加に繋げる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・各学部、年に1回実施する</p> <p>(2) 感染症予防指導</p> <p>・障がいの特性に応じた指導の工夫を行い、集団及び個別の指導を行う。</p> <p>・自らの判断や意思に基づいて、適切に行動選択し、主体的に健康的な行動を実践できる力をつける。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・各学部、年に1回実施する</p> <p>(3) 思春期教育</p> <p>・児童生徒一人ひとりの知的障がいの状態等を踏まえ、発達段階、身体的成熟や心理的発達に合わせて、社会生活への適応を図るための指導を行い、必要に応じて家庭との密接な連携・協力体制をとる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・各学部、年に1回実施する</p>	<p>識しながら歯みがきをしている様子が見受けられた。</p> <p>・9月に中学部の特別活動で、「歯を大切にしよう」を主題として保健指導を実施した。歯の染め出し液を使ったことで、自分自身の歯のみがき残しを目で見て確認することができた。さらに、歯を丁寧にみがく指導をおこなったことで、給食後の歯みがきも丁寧におこない、歯を大切にしようとする様子が見受けられた。</p> <p>・高等部生活コースでは、歯みがきに関する動画を視聴し、音楽に合わせて歯みがきの練習をおこなった。</p> <p>・1月に小学部の特別活動で、手洗い保健指導を実施した。手洗いの手順を学習し、「あわあわ手あらいのうた」に合わせて正しい手洗いの練習をおこなった。</p> <p>・高等部生活コースでは、しまじろうの動画を使用し、手洗いの大切さを学んだ。手洗いの実習では、学んだことを活かして、丁寧に手を洗う姿がみられた。</p> <p>・6月に中学部の特別活動で、「人との関わり方を考えよう」を主題として保健指導を実施した。赤ちゃん人形の抱っこ体験を取り入れ、一人一人が大切に育ててもらった命であり、自分も相手も大切にすることを学習した。また、パーソナルスペースについて話をして、人との正しい距離を学習した。</p> <p>・12月に高等部自立コースの授業で、「性の多様性について」と「男女の体と健康について」を主題として保健指導を実施した。生徒は、自分の生活や体の変化を振</p>
--	--	--

		<p>り返り、主体的に考える姿が見受けられた。</p>
<p>キャリア教育の充実</p>	<p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生と卒業生の交流を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回、在校生と卒業生が共に参加できる行事をPTA・同窓会合同で行う。 <p><研修・人権教育部（研修）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育の視点による授業実践」という研修テーマをもとに各学部で授業研究をすすめる。 <p><保健部（食育指導）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食を生きた教材として活用する。 ・児童生徒と関わりの深い事業所等の食材を積極的に使用し、地域の方に見守られながら成長していることを、給食を通して伝える。 ・様々な献立を給食に取り入れ、児童生徒の「食経験」を増やして、食に対する知的好奇心や興味関心を高める。 ・地域の農畜産物生産者と連携・協力し、出前授業等を通して交流することで児童生徒の地域社会への参画に繋げる。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に関わりのある納入業者を利用する。 ・日常の給食時間の児童生徒の変化（食べられるものが増えた・食べるときの姿勢等） ・出前授業の事後指導アンケートで、「〇〇さんのおはなしをよく聞くことができた」等で「はい」と答える児童生徒が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月末までに2回（夕涼み会、20歳を祝う会）機会を設けたが、20歳を祝う会の在校生参加者は0名だった。夕涼み会では、在校生26名、保護者52名、同窓生14名の参加があり、参加した在校生と卒業生の交流を図ることができた。 ・各学部で学部研修を実施し、全学部で研修報告を行い各学部の取り組みを研修した。 ・放課後デイサービスを運営するあそぼらいつ（「あそぼらん」を使用）、卒業生の進路先である多機能型事業所わかばえん（「ひじき」を使用）紀宝町社会福祉協議会アプローチ（野菜を使用）などの納入業者を利用した。 ・食べることができものの増加、箸の持ち方や食べるときの姿勢の改善、家庭での食事など児童生徒それぞれのペースで変化が見られた。 ・10月に学校給食精肉を納品する岡田精肉店社長西村氏を招き、みくまの牛について、食事のあいさつの重要性などの講話を行い、その後西村氏より寄付としていただいたみくまの牛を使用したハンバーグを給食で提供した。アンケートでは「西村さんの話をよく聞くことができた」という問いに80%以上の児童生徒が「はい」と回答した。

	<p><支援部（進路支援）></p> <ul style="list-style-type: none"> すべての生徒の進路保障に取り組み、各学部と連携して進路支援を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般事業所対象の学校見学会を開催し、本校生徒の就労受け入れ実績のない事業所を、5事業所以上招く。 児童生徒を対象に、年3回以上進路学習を行う。 保護者を対象に、年1回進路説明会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般事業所対象の学校見学会を7月12日(月)に実施。7事業所10名が参加。うち就労受け入れ実績のない事業所は4事業所だった。 4、6、9月に高等部で進路学習を行った。 PTA共催で保護者対象に、12月9日(土)にグループホームについての学習会を実施した。 中学部保護者を対象に、12月21日(木)に進路講話を実施した。 高等部2年生保護者を対象に、3月5日(火)に進路学習会を実施予定である。
<p>安全で安心な学び場づくり</p>	<p><生活指導部></p> <ul style="list-style-type: none"> いじめのない学校づくりをすすめるために、全校集会の中に、「命の大切さ」「仲間づくり」を意識した活動内容を取り入れる。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年2回、いじめ・体罰アンケートを実施し、いじめや体罰の早期発見早期対応に繋げる。 全校集会では、児童生徒が「命の大切さ」を学ぶことができる教材を必ず使用する。 <p><保健部（健康診断）></p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診断を実施する前に、児童生徒の障がいの状態や発達段階の的確な把握に基づいた事前指導等を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員に実施方法についてのアンケートを行い、満足度80%以上とする。 <p><保健部（避難訓練）></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が災害時に安全に避難できるよう、避難訓練の事前指導・事後指導を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事後指導アンケートの「先生の話聞いて行動できたか」「『おはしもち』を守ることができたか」の項目 	<ul style="list-style-type: none"> 7月(前期)、12月(後期)にいじめ・体罰アンケートを書面で実施した。 6月、1月の命を大切に集会では、「命を大切さ」について考えるビデオ教材を使用した。学部を越えて「仲間づくり」ができるように縦割り班での活動を行った。 4月～6月に定期健康診断を実施した。児童生徒が健康診断について理解し、見通しをもって進められるように、検診器具を貸し出した事前指導をおこなった。今後も、各学部の教員と連携を図り、児童生徒が安心して検診を受けられる体制づくりに努めていきたい。 7月に地震に関する訓練と初期消火訓練、9月に火災に関する訓練と煙体験を実施した。児童生徒への事後アンケートでは、成果指標を達成することが出来た。また起震車体験に関しては、初めて大きな地震の揺れを体験したので

	について「はい」と答えた児童生徒が 80%以上とする。	驚いたという感想が多数書かれていた。
--	-----------------------------	--------------------

改善課題

<小学部>

- ・小学部は目標達成率を評価してきたが、次年度から成績が絶対評価に代わるため、中間資料の作成を検討する必要がある。

<中学部>

- ・来年度は中学部の教員の人数が減る予定であり、授業後の事後研の視点が固まってしまうことが考えられる。様々な視点から授業についてご意見をいただけるよう、参観者を多く募るようにしたい。多くの教員が参観できるようにする環境整備が必要であると考えられる。

<高等部>

- ・キャリア教育の充実について 各学部教員が学部目標およびそれぞれの学部の子どもの像を意識しながら支援を行っているか。学部間連携の充実をはかる必要がある。

<総務部>

- ・在校生の参加者が0名となり、同窓生との交流を図れなかった行事もあったため、在校生も参加しやすいよう、内容や日程の調整等を検討していきたい。

<教務・情報部>

- ・校務支援システムが導入され、他の特別支援学校と足並みをそろえていく必要がある。本校では、自立活動実態シートを作成していなかったため、来年度は全児童・生徒分作成する。

<研修・人権教育部>

- ・今年度は中学部に研修人権教育部の教員がおらず、交流教育等で連携がうまくいかないところがあった。来年度も同じような体制になることが予想されるので分掌内で中学部のフォローをする担当教員が必要であると感じた。また学部研修も各学部によって人数の差があるので、研修の進め方も見直していく必要があると感じた。

<生活指導部>

- ・「命の大切さ」「仲間づくり」を意識した活動内容を取り扱う際、事前に教材や活動内容を各学部に共有して、事前学習、事後学習につなげられるように工夫する。

<保健部>

(保健指導)・各学部の児童生徒の実態を把握し、一人一人の発達段階に合わせて、個別の指導も充実させていくと共に、主体的に健康的な行動を実践していけるよう、さらに指導の工夫をしていきたい。

(食育)・外部講師を招き、地域の農林水産物や、健全な食生活について考える場を増やしていきたい。

(健康診断)・児童生徒が、主体的に健康診断に臨めるように、実施の工夫をしていきたい。

(避難訓練)・避難訓練では、今後も今年度と同じような体験、事後アンケートを実施していきたい。

<支援部>

- ・一般事業所対象の学校見学会の周知方法を検討する必要がある。
- ・中学部の進路学習について、中学部と連携して進めていく必要がある。
- ・保護者への進路情報の提供について、どのような方法がよいのか検討する必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容	結果
保護者・地域住民等との連携	<p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業学習の成果を地域に発信し、地域とのつながりを深めたり、本校の活動の理解を広めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習で今年度より製作を始めた牛乳パックと折り染めを使った

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校、中学部3年生の出身小学校3校に作業作品を配布する。 ・文化祭にて保護者・地域の方々に向けて作業作品を販売する。 <p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が校内外の行事や交流活動に積極的に参加をする。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事や地域への活動等へ3回以上参加する ・授業で制作した物品や成果物を地域へ2回以上配布する。 <p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりによる保護者や卒業生、地域への情報提供を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの発行・保護者や関係機関への配布、町内掲示板への掲示を毎月行う。 	<p>ったしおりを、7月に金山小学校の低学年および教員に配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭にて、作業作品60袋販売し、完売することができた。 ・2学期末には、現3年生の出身校である鶉殿小学校、神志山小学校、井田小学校、神内小学校の4校に生徒とともに訪問して、作業作品を配布するとともに卒業生徒の活躍を伝えることができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・JRC活動では連絡協議会や交流会に参加。他の高校生徒との交流を持つ機会となった。 ・丸山千枚田の田植え（5月）と稲刈り（9月）に参加した。 ・三重県障がい者巢スポーツ陸上競技大会（伊勢市）に参加した。また高等部生徒が全国大会に出場した。 ・神川町藍染工房を訪問し藍染作業についての実技講習を体験した。 ・空き缶回収の協力いただいている金山町夢が丘団地の各家庭に返礼品として作業作品を2回配布した。文化祭で来場者に作業で栽培した野菜等を無料配布した。 ・作業では農福連携事業を活用して地域の方を招いて指導。助言をいただいた。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりは毎月1回（8月を除く）発行した。各家庭への配布のほか、地区掲示板（11か所）や事業所（33か所）等に掲示・配布した。
<p>資質向上の 取組</p>	<p><教務・情報部（教務）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程が、学校として、統一性、一貫性をもったものとなるよう、またより新学習指導要領に対応したものなるように再編する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部においてコースの見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に向けて、教育課程を再編した。各学部の教育課程を見直し、「合わせた指導」を新学習指導要領に合わせて元の教科に置き換える作業を行った。

・全学部において指導と評価の計画がより明確なものとなるよう「合わせた指導」の見直しを行う。

<教務・情報部（情報）>

- ・臨時休校となっても、オンラインで学びが継続できるように準備をすすめる。
- ・個人情報の管理について整備する。

【活動指標】

- ・GIGA スクールサポーターと連携し、ICT 機器をスムーズに活用できるよう教員向けに情報を発信する。
- ・個人情報等の管理についての規定を設け、教員に周知する。

<研修・人権教育部（研修）>

- ①転入職員対象の研修会を実施する。
- ②教職員による「授業研究」を行い、授業の実践力を高める。
- ③教職員対象の研修会を実施する。
- ④外部講師招聘事業を活用し、教員の指導力を高める。
- ⑤公開研修会を実施する。

【活動指標】

- ①転入職員対象の研修会は、年2回、実施する。
- ②「授業研究」については、報告会を学部ごとに1回ずつ実施する。
- ③年2～3回実施する。
- ④学期に1回実施する。
- ⑤年1～2回実施する。

<生活指導部>

- ・不審者侵入時対応や児童生徒失踪時対応についての訓練や講話を実施し、緊急時に教職員が迅速な対応を取ることができるよう校内体制を整える。

【活動指標】

- ・教職員が専門的知識や技能を学ぶために、警察署に訓練や講話の講師を依頼する。

<保健部（研修）>

- ・救命救急法研修会を実施する。
- ・食物アレルギー、てんかん発作、嘔吐処理についての校内研修を実施し、児童生徒の緊急時に教職員が迅速な対応をとれるような校内体制をつくる。

- ・Google Classroom を整備し、オンライン授業の準備を行った。
- ・GIGA スクールサポーターと連携して、情報を共有し、12月に教員向けの研修を行った。
- ・個人情報の管理についての規定を5月に整備し、個人情報の管理についてのアンケートを実施した。（年3回実施）

- ・転入職員対象の研修会を2回実施した。
- ・キャリア教育をテーマに学部ごとに授業研究を実施した。
- ・ST、PTの先生を外部講師として教員向けの研修会を実施した。
- ・7月に人権同和教育公開研修会を実施した。

- ・5月に警察署に訓練講師を依頼し、不審者侵入時対応講話を実施した。また、2月には児童生徒失踪時対応訓練を実施した。

- ・4月に外部講師招き、食物アレルギー・てんかん発作についての校内研修をおこなった。中学部は、8月に児童生徒の実態に応じ

	<p>・災害時や緊急時に適切な対応がとれるような校内体制をつくる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・教職員参加率 90%以上とする。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・職員アンケートで満足度 80%以上とする。</p> <p><支援部（地域支援）></p> <p>・特別支援教育に係る教職員の専門的知識と支援の向上に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・特別支援教育に関する公開講座を開催する。</p> <p>・本校教員を対象とした特別支援教育に関する校内研修会を開催する</p> <p>・地域支援活動によって得た、関係機関の研修や障がい者支援、特別支援教育についての情報を校内に環流する</p> <p>・より効果的な教材や指導書を紹介する</p>	<p>たてんかん発作の緊急時対応訓練をおこなった。</p> <p>・5月と8月に嘔吐処理研修を実施した。</p> <p>・避難訓練では、児童生徒とともに地震に関する訓練、火災に関する訓練、初期消火訓練、煙体験、起震車体験を実施した。1月には教職員向けの初期消火訓練を実施した。会議等の予定と重なった教職員がおり、参加率は90%を達成できなかったが、不参加だった教職員には消火器の使用方法に関する動画と消火器の使い方に関する書類を共有した。教職員アンケートの満足度は達成した。</p> <p>・4月に職員全員を対象に動画での救急救命法研修、8月に消防署から外部講師を招聘し、実践研修を実施した。</p> <p>・8月4日に公開講座を開催した。三重大学松浦教授を招聘し講演会を行った。地域からの参加者63名、オンライン参加者13名だった。</p> <p>・6月7日校内の本年度転任教員を対象に研修を行った</p> <p>・関係機関の研修情報の教職員に回覧した。</p> <p>・支援に有効な図書の購入を行った。</p>
<p>働きやすい 職場環境 づくり</p>	<p><小学部></p> <p>・年休を取得しやすい環境を整える。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・年休の取得率 80%以上を目標とする。前期 10 日分、後期 10 日分として取得率を評価する。</p> <p><研修・人権教育部（研修）></p> <p>・人権・同和教育に関する研修会を実施する。</p> <p>・パワーハラスメント防止啓発についての研修会を実施する。</p>	<p>・前期は 90.0%となっている。ただし、職員間に偏りがあるため、業務の平準化を進める必要がある。</p> <p>・後期は 83.1%であった。</p> <p>・尾鷲市林町会館の館長濱田先生による人権同和教育公開研修会を7月25日に実施した。地域の</p>

	<p>【活動指標】 ・いずれも、年1回以上、実施する。</p> <p><学校全体> ・教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を整備する。</p> <p>【活動指標】 ・定時退校日を月1回設定する。 ・会議の所要時間45分以内を遵守する。 ・月45時間を超える時間外労働をなくす。年間の時間外労働時間を360時間以内とする。 ・年間1人あたりの休暇取得日数を昨年度より増加させる。 ・コンプライアンスミーティングを実施する。</p> <p>【成果指標】 ・定時退校できた職員の割合80%以上 ・時間内の会議の割合80%以上 ・1人当たりの月平均時間外労働時間25時間以内 ・月45時間を超える時間外労働者数0人、年360時間を超える時間外労働者数0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数16日以上 ・コンプライアンスミーティングを年3回以上</p>	<p>学校からも多くの先生方の参加があった。</p> <p>・月1回の定時退校日に加えて、8月と12月に学校閉校日を4日設定した。</p> <p>【以下の数字は4～12月の期間】 ・定時退校できた職員の割合は85.5%となっている。 ・45分以内に終了した会議の割合は76.5%、60分以内に終了した会議の割合は95.8%となっている。 ・月平均時間外労働時間は16.7時間となっている。 ・月45時間を超える時間外労働者数は4人(のべ8回)となっている。年間360時間は超えていない。 ・平均休暇取得数は18.8日となっている。 ・コンプライアンスミーティングは年3回実施した。「学校におけるハラスメント研修」動画は非常勤講師も含めて全員が受講した。</p>
<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p><総務部> ・ホームページによる情報提供を行う。</p> <p>【活動指標】 ・ホームページの更新を月1回以上行う。</p> <p>【成果指標】 ・年間ホームページ閲覧者数を6500人以上とする。</p> <p><学校全体> ・本校の教育活動への理解を深めるために、報道機関への資料提供を行い、情報を積極的に配信する。</p> <p>【活動指標】 ・年間5回以上の資料提供を行う。</p>	<p>・ホームページは学校だよりの他、行事・授業の様子などを月1回以上更新した。 ・1月末までのホームページ閲覧者数は6764人だった。</p> <p>・入学式、熊野オープンガーデン、体育祭、文化祭、卒業式の5回資料提供を行った。</p>
改善課題		
<p><小学部> ・年休取得を促す取り組みは一定の効果はあったが、まだまだ「ほかの人に迷惑がかかる」といった発想が根強い。自由に取得できるように啓発活動を続けていくとともに、休みやすい体制の整備を進める。</p> <p><中学部></p>		

- ・来年度の中学部の生徒数が大幅に減少する見込みであり、今年度並の活動を続けていくことが困難であると予想される。少人数でも成り立つ方法や、地域発信できる題材を考案する必要がある。

<高等部>

- ・今後、医療的ケア対象児童等をはじめとして児童生徒の増加により教室不足が懸念される。教室環境の整備が必要である

<総務部>

- ・ホームページ閲覧者数は、目標の人数を超えることができた。古い情報は削除するなど掲載内容を精査し、保護者をはじめとした閲覧者が、より情報を得やすくなるようにしていきたい。

<教務・情報部>

- ・来年度より新たに校務支援システムが実施となり、県内の特別支援学校の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の書式が統一される。児童生徒の個人情報を一元管理し、出欠の状況など必要な情報を校内で共有できるよう、情報提供や研修を重ねることで体制を整える必要がある。

<研修・人権教育部>

- ・今年度から学校から地域の福祉祭りへの参加を控えたため、保護者・地域との連携した活動の内容が薄くなってしまった。今後金山地区との連携した活動ができないか模索していきたい。

<生活指導部>

- ・児童生徒失踪時対応について、教員の対応方法にいくつか改善余地があった。緊急時に迅速に対応できるように、毎年実施を行っていく。

<保健部>

- ・より実践に活かせる救急救命法研修会となるよう、内容の充実を図る。また、職員の普通救命講習修了証習得を徹底していく。
- ・大きな地震の揺れを経験したことがある教職員が少ないため、児童生徒の体験の際に、積極的な乗車をお願いしたい。初期消火訓練に関して今年度は年間行事予定に記載がなかったため、事前に記載し、参加率を増やしていきたい。

<支援部>

- ・公開講座は好評だったため来年度も松浦教授を招聘しさらに認知行動療法について具体的な技術や事例について講演をしていただく。地域支援で得た情報や、行った研修会・ケース検討等について個人情報に配慮をした上で、紹介した書籍や教材、支援方法など校内に還流できたらと感じる。

<学校全体>

- ・定時退校日は、できる月とできない月の差があるので、行事予定と合わせて設定していく必要がある。
- ・会議時間は短くなってきている。効率的な会議の進め方については、全員で共有する必要がある。
- ・時間外労働時間数、休暇取得日数は年々改善している。引き続き、業務の精選を続けていく。

5. 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

- ・金山地区との交流について、くろしお学園で見たポッチャがおもしろいと思ったので、金山地区で広める活動を行っている。毎週木曜日にポッチャをしているので、いっしょにポッチャ大会を開催できるとよい。
- ・しおりを作って小学校に配布しているが、市町の図書館などに置いたら、もっとたくさんの人に知ってもらえるのではないか。
- ・たくさん取り組みを行っているが、数値目標をもっと入れてほしい。また、「何を何回やった」ではなく、「その結果、どうなったのか」を知りたい。
- ・たくさん取り組みを行っているが、先生方が疲れてしまっは意味がないので、先生方の健康にも留意しながら、がんばってほしい。

6. 次年度に向けた改善策

<p>教育活動に についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の充実については、 ・キャリア教育の充実については、 ・安全で安心な学び場づくりについては、
<p>学校運営等に についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との連携について、地域の活動にくろしお学園が参加するだけでなく、ポッチャなどくろしお学園が取り組んでいる活動に地域住民が参加してもらうような双方向での連携を模索していく。 ・資質向上の取組について、全国的な教員不足もあり、今後も経験の浅い教員が増加することが見込まれる。教員の負担が大きくなるように配慮しながら、さまざまな研修を実施して、資質の向上に取り組む。 ・働きやすい環境づくりについて、